２．未来への交渉

国連の改革

報告者：江口踊、坂口史、高比良香織

国連は１９４５年、当時の台頭たちによって生み出された世界中の諸問題を解決し、これからの世界から戦争をなくすために設立された。その目的はまた、侵略国への待遇に関する協定も取り決めることでもあった。各国の代表たちは安全保障理事会を、戦争を回避する手段のひとつとして設置した。そのころの有力国である中国、フランス、イギリス、アメリカ、そしてロシアの代表者たちを集め、定期的に話し合いを持つことで、戦争の再発を防止できると考えたのだ。確かにその５カ国のあいだで、戦争が再び勃発することはなかったが、他の地域や、その他の多くの国々では、何らかの形でこの５カ国を巻き込んでの戦争が現在でも続いている。

しかし、世界の問題は軍事上の闘争を越えるものだ。闘争を引き起こす原因のいくつかは、人種主義、人権の侵害、世界の社会的、経済的分裂であると見られた。これらと戦うために、特別の機関を含む、国連のその他の機関はつくられた。政府の了解を得て、国連はこれらの問題に強い影響を与えた。軍備縮小の条約、幼児の死亡率の減少、収入の上昇と発展の拡大などがなされてきた。

しかし、１９４５年の問題はいまだなくなっていない。カンボジアでの闘争のようなもののいくつかが、国連の努力によって大きく消えていっても、多数の新たな闘争が、どこかで勃発する。発展途上国は生産レベルの上昇が見られる一方で、１０億人の人々、すなわち世界の２０％は貧困で、豊かな国と貧しい国の間の溝は広がっている。南アフリカのアパルトヘイトは廃止されたが、迫害や民族の嫌悪が他のところで残っている。公害に対する抑制が進んでいるが、環境の悪化も進んでいる。

国連は活動していたのか？国連は単独で組織してはいない。平和を守ることであろうと、公衆衛生であろうと、是認したり、手始めとして資金を提供したりするのは、もっぱら加盟国の意思による。同時に、各々の加盟国や政府は自国の将来の見通しと同様に、利権を持っている。

下の図は、国連の会議で違う国々の代表者間で見られる世間一般の緊迫状態を象徴している。

1. 私たちは、大いなる資本力があり、もし必要ならば私たちは世界のどこででも自分自身の興味で行動することができる。私たちが主張をするのは、世界の残りの国が私たちの投資や貿易に門戸を開くようにということだけである。
2. 私たちは共産主義国家ですべての国民を平等にしようとしている。それで、なぜ他の諸国は私たちを孤立させ、私たちに対して差別をしようとするのか？
3. 100 以上もの他の貧しい国々のような私たちは、豊かな国々によって搾取されていると考えている。その結果として、私たちは、しばしば政治的な混乱や軍事攻撃、国内紛争を起こさなくてはならない。
4. 安い賃金と産業の労働人口とともに、私の国は投資に魅力があり、上手くいっているため、人権について多くの注意を払う必要がない。
5. 私たちや、他の国々はすべての安全性や繁栄をもたらす強い共同体を成している。暮らしがよくなると、第３世界に対して、もっと行動を起こすことができるだろう。
6. 私たちのような中立国は、自分たちの国の繁栄を手助けする軍事支出を貯めることができる。しかし、もちろん私たちは世界貿易や世界の力のバランスに頼っている。

上に描かれた国々は全くの架空のものである。実際の国にありそうなことは意図されていない。

１９９３年にブートロス＝ガリ事務総長は冷戦後の新しい機会について、組織の仕事を報告した。

世界組織の巨大な潜在力が、貧しい国々の強固な声として、人道主義救援の援助者として、人間や少数民族の権利の保護者として、危機国家の援助人として、損傷した地球環境を直す道具として、認識され、変わらない世界秩序の体制を要し始めた。実質的には、すべての領域で十分な成功をしている。しかし、同様に深刻な妨げもある。多方面からのデータは、私たちが直面している広範囲な協議事項という観点で期待されている。

国際連合の事実ファイル：国連の協議事項において

１．環境：リオ・デ・ジャネイロにおける、環境と開発についての１９９２年の国連の会議で、政府は大気へのダメージを制限し、森を守り、自然の環境を保護しようとする、２つの協定に同意した。

２．平和：国際連合の平和維持軍のコンセプトは国連憲章から離れていた。しかし国連は状況を変えることにし、平和維持は今や、闘争を阻止し、防ぐための、確立された機構になっている。

３．安全：国連の、軍備縮小に関する２つの特別な総会は、国際的な観察と管理のもとでの全般的な軍備縮小の目標を提案した。

４．貧困：国連の活動の４分の３は、世界の貧困の排除に対してあてられている。１つの国連の戦略のもとで、裕福な国々はこの課程を援助するために、彼らの GNP（国民総生産）の０．７％を寄付しなければならない。そうする国はほとんどない。

５．人権：国連の人権委員会は、人権の悪用についての調査報告をしたが、そのメンバーは自分たちの個人的な見方を、批判から身を守りすぎている。

６．　分担金：国連の費用は、１８５の加盟国の中で割り当てられている。１９９４年には１０億ドル以上を国連に義務として負っていた。どたんばまで寄付をするのを控えた国もあれば、すべての分担金よりも少なく支払う国もあった。しかし、全体の国連の組織は、およそ、いくつかの国が６ヶ月間にアルコール飲料に費やしたと同じくらいの費用がかかる。

活動

１．自分を一国の首長であると仮定して、上記（「国連の事実ファイル」）の６つの事項がいかに重要であるかに言及するスピーチを書きなさい。あなたが治める国はこれらの国際問題に対してどのような公約を掲げるのかの概略を、「国連の事実ファイル」とこの課で学習した内容を用いて説明すること。

２．上記の表のなかから、それぞれの関心のある引用について、発表のためのグループを組み、他のグループが選んだ引用と自分たちのそれとのちがいについて話し合いなさい。また、クラスでも話し合うこと。その際、全員が一切の衝突なしに納得するためには、自分の意見のどのような点を変えればよいか、考えること。

３．おなじグループで、自分たちが重要だと感じる問題点を、局所的なものと世界的なものとの一対にして表にあらわし、上位の４つについて話し合いなさい。また、その問題の解決策についても話し合うこと。４つすべての事柄についての策をグループでまとめたら、さらにそれをクラスで話し合いなさい。その際、他のグループを自分たちのまとめた意見に納得させ、その有効性を充分にわからせようと努めなさい。自分たちの意見を相手に伝えることも重要であるが、自分たちの意見を批判的に見つめなおすことも必要である。他のグループの発言をきいて、自分の考えを改めるようなことはあってもよい。他者の発言を、柔軟に、素直に受け止めるように努めること。自分の考えとまったく同じではないからというだけで相手を否定してはいけない。自分たちのリストと似たものを作った別のグループがあったら、話し合って、考えをひとつにまとめなさい。クラスのなかで多数の同意を得ることができたら、その意見は受け入れられることとする。

４．この課における話し合いや共同作業から学習したことを書き留めておきなさい。

コメント・問題提起

私たちは国連の改革に関して二つの点を問題点として挙げた。

まず一つ目に、国連が抱える問題があまりにも多すぎるという点である。１９４５年の国連の発足以降、社会主義と資本主義体制による世界の二分化はおさまりを見せた。しかしそれでも、世界全体で見れば、多くの国々でいまだに戦争や紛争は起こり続けている。加えて、人種問題、人権問題、経済格差、環境問題などの問題が追いうちをかける。これらの問題は確かに昔から存在していたが、昨今の先進国のさらなる発展により、さらに具現化してきている。その現状に対して国連は、さまざまな機関を設置し、対応を試み、少なからず成果をあげてはいるものの、それぞれの国際問題がもつ複雑さや、その規模の大きさゆえに完全な解決策を見つけるまでには至っていない。

二つ目の問題として、国連と加盟国との関わりあいについての問題が挙げられる。というのは、国連の活動において、加盟国（とくに常任理事五カ国）の権限が非常に大きく、協力的でないこともあるゆえに、その活動がときに制限を強いられることもあるのだ。さまざまな国の活動は、もっぱら加盟国の意思によって行われている。その加盟国それぞれが自らの国の展望や利権のために、国連の活動において積極的に行動しないことがある。本文中の「国連の事実ファイル」でも例が挙げられていたが、分担金の未払いや滞納は、アメリカをはじめとする大国においても顕著である。

これまで挙げてきたように、世界の問題は決して尽きず、次々に発生しており、加盟国の非協力などもあるため、たとえ国連が誠意を持って活動していても、根本的な解決をもたらすことはできないと言うことができる。ゆえに、世界的な問題を取り除く努力に加え、国連を内部から改革していく必要がある。